
ラストハイライト

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラストハイライト

【Nコード】

N9784J

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

今までの僕の作品は全て歌詞として残してきたものです。そして、今回も同じ目的で作っていくものなのですが、今回の作品は特に音楽として残して欲しいです。僕はそんな才能なんて無い人間なので作詞能力も全然無いです……。音楽の才能なんてこれっぽちもだと思っっているのです。音楽好きな人、この歌詞を使って一つの唄を作っってください。お願いします。他の作品も同様に。メッセー
ジください。とりあえず読んでみて頭の中で世界を広げてください。

ターミナルステーション

「此処からあなたの物語が始まる」と
退屈そうに言う老人

「私の世界はこんなはずじゃない……」と
手首を切った女の子

それぞれの思い入力で成り立っている
だから世界は黒くて白く見えるのだろう

鉄棒の下、諦めかけた事、砂を蹴って、頑張った事
一分の一の思い出に今は無き魔法がある

失望の夜、手にしたナイフ、絶望の朝、まだ在る脈拍
天国と地獄の中で生きる事を学んできた

始まりの鐘はいつだって自分が鳴らす
迷って疲れた旅路を歩く
存在の旗を掲げる生命

掛け算の畏、躓いた穴、希望の唄、忘れた午後
聴こえる君の声がそのままの音として

限界点、ステップ&スキップ
あなたに逢いたい誰かがいる
緊張感、リラックス、マインド
世界が逢いたいあなたがいる

始まりの鐘はいつだって自分が鳴らす

笑って過ごした日々を読む
最後の幕は運命の中で

「此処からあなたの物語が始まる」と
退屈凌ぎに呟く老人

「私の世界はそれでもいいの」と
包帯を巻いた女の子

個々の存在が煌めく世界
幾つもの物語が並ぶ世界

L o n e l y B i r t h d a y

「明日は来ないんだって……」 虚ろな目をした彼女が言ってる
「今日で終わるんだって……」 痩せ細った体の彼女が言ってる

「世界は破滅するんです……」 テレビのニュースキャスター、泣いてる

「あの子は生きれないんだって……」 病氣の人を演じるドラマ、なんて軽い命なんだ

『美しく笑うと泣くのが怖くなる』
それなのに僕達は嘘の笑顔を作って
泣くのを怖がっている

だから汚れた事など分かっていたんだ
綺麗な部分など何処にも無いんだって
一人、部屋の隅で膝を抱えるくらいの世界
光が見える闇の中で

「彼女は死んだんだって……」 嘘泣きで並ぶ参列、醜い
「アンタも死ぬんだって……」 実感が湧かない終焉、夢の中

『苦しそうに生きれば誰か構ってくれる』
互いの傷を擦り合う事で
平常心を装う

だから構えたナイフを翳せない様に
ビルの屋上に靴が並ばない様に
狂った精神なのに生きれる世界が嫌い

光が眩しい闇の中で

「明日は来ないんだって……」 街を見渡す彼女は呟いた
「世界は終わるんだって……」 夢を見る僕達は言い続ける

だから孤独じゃないと何かが嫌なのに
不思議と生命は保たれていくように
眩しくて見れない光の形を
その手で……。

いつか終わる世界が綺麗である様に
全てを亡くす美学を語る様に
一人、滴る赤を泳いで暮らす日々
光の中を……。
眩しい光の中を……。

天気予報ハズレ

ずぶ濡れになってしまえば 頬の涙も見えなくなるから
さあ、来い。通り雨。僕の悲しみも洗い流してよ

快晴になってしまえば 君の気分も少しは晴れるかな
いらねえ、曇り空。世界の未来と共に晴れになれ

同じ毎日の様で、違っていく。

へこんでばかり、死ぬ事に必死
そんな甘ったれた世界に喝

素晴らしさを抱えて

過ちばかりの日々 不安、撤去出来ねえよ

あやふやになってしまえば 笑顔で泣いた事も一つの表情として
くだらねえ、悩み事。「死にたい」なんて生命を活かしてから言え
って

狂った世界だと思い続ける
病は気から、って言葉
今ならちよつと信じるかも

素晴らしさを抱えて

履き違えた運動靴、嘘を上手く歩ける靴はいらない……。
いらないのに……。ねえ？

全て言われた通りは嫌だ
だから天気予報、たまには外れる

全て仕組まれた様に進む

だから天気予報、世界を壊せよ

素晴らしさを抱えて

喝をいれた世界の中 嘘が散らばる道を、僕は歩く

救いよりの無い、素足のまま

素晴らしさを抱えて

過ちばかりの日々 不安、詰め込んで行こう

明日は天気予報ハズレ

いつか天気予報ハズレ

最終列車の旅

日々、欠けた月。

命の火、脆い聖火。

大木に吊した木の実を収穫

産まれ来る希望への讃歌

未知、一度の道。

蛍の火、人型の光。

青白い惑星、駅のホーム

7月27日に出発した最終列車

終点は知らされていない

しかし、終点は必ず見えるらしい

最終列車は僕を乗せて

未だ見ぬ世界へ、静かに向かう

パティシエを夢見た女の子、列車は終点に着いた

世界を恨んだ女の子、列車は終点に着いた

好き嫌いの差はあれど

着いた場所は同じだろう

日々、満ちかけた愛

星が見た星、人型の光

最終列車は僕を乗せて

誰も知らぬ終点を目指して進む

最終列車は君を乗せて
日々をくぐり抜け、静かに走る

カナシミアイシ

何か無駄な物があるからゴミ箱があるのでしょ？
何か必要な物があるから思い出があるのでしょ？

全て不思議と当たり前にその場にあるものとして
全て不思議と増やしては綺麗に消えるものとして

この心臓が鳴らすリズム
それは当たり前に此処に響くのか

定かではない愛をあの子に向ける事をして
微かに見えない彼女の両目は何が為に泣いて

この感情が示すメカニズム
それは人が創る悲しみの色か

あなたが生きている世界が狂っていく今
全ての存在が価値を見失ってしまう
何もかも必要だから存在が有るのでしょ
ゴミも思い出も 僕と君だって

ペットボトルが浮かぶ湖
白鳥の様に 空に輝く月の様に
ヨーグルト、コッペパン、チョコレート
生命を支える物とは此処に在る全てだ

大切な人を亡くした二月の中旬
あれから一年が経つなんて

悲しみの果て 苦しみの果て
それでも世界 愛し合わなければ

この心臓が鳴らすリズム
個々の存在が示す生命の旗印

あなたが生きている世界が狂っていく今
全ての存在が価値を見失ってしまう
壊れるまで走れ 未成熟で生きろ
全ては未完成な存在だ
死ぬ時に完成すればいいのだ

全てが個々のストーリーだ
全てが此処に在る意味だ

放射線

今君が立っている現在地で状況判断をしよう
間違えがあるか？ 今が嫌いか？

ただ苦し紛れに過ごしてきた人生に頼るだけ
それが勇気だろ？ それが正義だろ？

夢を見た 比例して増える不安
全て同じ鞆に詰め込んできた

もう重くてあるけないなら、想いをちよっと零せばいいよ

どうにもならない現状
生きるだけの日々

「暇だ」退屈凌ぎの解剖実験
隠したはずの憎しみや悲しみは
まだ底で脈を打っていた

事件が起きてほしい訳じゃない
死んでしまいたい訳でもない
生きる事に疲れた訳じゃない
誰かこの病を治してよ

君を見た 可愛い笑顔で胸が痛い
全て間違えた事って訳じゃない
正解、不正解、その他だって結果があるでしょ？

どうにもならない現状

生きるだけの日々

やり直しが出来ない日常
動くだけの身体

今周りを見渡せば、何も無い荒野じゃないだろ？
360度、全ての方向に何かしら道がある
その放射線状を歩む事

マジックボックスコンペア

当たり前の様に此処にあつて 当たり前の様に個々にあつた
「くだらない」と呟く背中を 悲しそうに撫でるその手があつた

痛みを知る事を覚えて 痛みを隠す優しさを覚えた
優しさが持つ哀しさを知つて 哀しさを溜める玉手箱を作つた

失敗ばかり 大変だ

人類とは繰り返しの中に意味を問う

失態ばかり 大変だ

存在とは成り済ます愛に全てを伝う

左から右へ

次から次へと移り変わる世界

耳から耳へ

次から次へと移り変わる感情

苦いチョコレート食べて 生クリームの甘さを痛感

厳しい先生の授業受けて 手抜き教師が誰だか分かる

失態ばかり 大変だ

何もかも比べなきや価値観が見えない

失態ばかり 大変だ

対義語とは常に近い 愛と哀の間

左から右へ

送られていく誰かへの想い

手を伝つて手へ

温もりの物々交換 優しい

流れてくるマジックボックス 中身が絶望だって横に流す
流れてくるジュークボックス 楽曲が絶望的でも横に流す

左から右へ 右から左へ

通り過ぎていく全ての物事 必要な物は拾っていけ

左から右へ 右から左へ

通り過ぎていく世界の存在 必要なら知っておけ

彼氏彼女の物語

あのね、貴方に言いたい事があるの。

私が何度聞いてもね、貴方が絶対答えない事。

また今日も聞いてみるわ。「私の事、愛してるの？」

傷付くのは分かってるの。裏切られるのにも慣れてるの。

でもね、貴方は知らないでしょう？

一人で迎える朝、濡れた私の枕を。

貴方の腕の中がどうしても好きで、そして怖いの。

だから、ねえ、答えてよ。「私の事、愛してるの？」

あのさ、君に隠してる事があるんだ。

柄にもなく恥らしい、そんな隠し事なんだけど。

また今日も隠してる。言葉ってのは不便だ。

傷付ける事が怖いのに。裏切っていて申し訳ない。

でもさ、伝わってくれないかな？

僕から滲み出る、照れ臭い想いが。

君も隠してるつもりだろ？ 僕がいない時泣いてる事。

そんなの仕草一つで分かるよ。だって「君を愛しているから」

擦れ違いがなんて苦しい。それなのに些細で照れ臭い。

そんな可愛い関係が彼氏彼女っていう物語だろ。

呆れるような日もあるよ。愛を語り合う夜もあるよ。

それでも綺麗じゃない恋人達は綺麗な想いで、抱き締め合う。

「ねえ、腕の中温かい。私の事、愛してるの？」
「そうかな。それはね……もう朝か。起きようかな」

殺害プロジェクト

女子高生を拉致って部屋の中に閉じ込める
そしてヤルだけ 毎日ヤルだけ
それがレイプ犯達のプロジェクト
そのうち女子高生は命を亡くす

過呼吸を起こして白い病院に閉じ込める
目が逝つてる 頭が逝つてる
それがパジャマを着た子の運命
医者には治せない心の病だ

生まれた瞬間からの始動
殺害プロジェクト
白い病院は僕を閉じ込めて
殺害プロジェクト

生きていく事が本当に幸せだっと思えるかい？
難しい世の中です 世間の声は厳しいです
生まれる前に死んでしまった子供達の為に
白い病院から届ける僕からの賛美歌

生きてる意味が主催者
殺害プロジェクト

レイプ犯と同じ仕組みで出来た僕は
何もズバ抜けていない平凡な日々に殺される
持病持ちの小さな子供と同じ病院
ただの風邪、白い病院で孤独に殺される

何だかよく分かんないね
命なんて考えちゃうと
何だかよく分かんないね
命無いと死んじゃうよ

生まれた瞬間からの始動
殺害プロジェクト
生きてる希望達が黒幕
殺害プロジェクト

Kill You Hold

誰か悪さをしないように、僕が盾になってやろう
知らない奴が声かけたなら、僕がそいつを撲り殺す
君を本当に愛しているから
僕はどんな罪にだって手を汚すよ

気安く誘うネオンの男、僕は奴を土に埋めたよ
馴れ馴れしい体育教師、僕は奴をバットで撲ったよ
全ては君を想うが為だ
僕はどんな悪魔とでも仲良くなるよ

君を守る為の手段
それで君に鎖を付けているなんて……。
君を守る為の手段
それで君を閉じ込めているなんて……。

僕はただの監禁犯じゃないはず……。

嘘の感情で響く愛の声、ベッドの上、君を挿すよ
偽りだらけの口づけを交わし、ベッドの上、君を挿すよ
全ては君を愛しているから
僕はどんな事があるうと君を手放さない

最後はロープで縛っても
手錠や首輪を付けてでも

君を守る為の手段
本当に愛しているだけなんだ……。

君を守る為の手段

一緒に暮らしたいだけなんだ……。

僕はただの監禁犯じゃない……。

僕はただのレイプ犯じゃない……。

僕はただの殺人犯じゃない……。

僕は君を愛しているだけなんだ……。

綺麗な花の様に

暖かい春の日に彼女が呟いた事、「貴方の部屋は地味だね」とだから綺麗な花を窓辺に飾った

「綺麗なだね」って笑う彼女の笑顔が美しい

「私がまた来るまでちゃんと育ててね」と言って彼女は電車に乗って東京を目指した

「またね」って照れて笑う彼女の笑顔を心に残して

手紙から想像する彼女はいつも一人ぼっちでそれでも僕の頭の中の映像では笑っていた

綺麗に咲いた花の様に

心に飾った彼女の笑顔

もう地味とは言わせない

こんなにも綺麗な花が咲いてるのだから

雨が降った日曜日、曇り空月曜日、良く晴れた木曜日

彼女の事をずっと考えて暮らす毎日

もう癖になってしまった。花に水をあげる習慣。やめたくない。

朝方ニュースで見た女子大学殺人事件

テレビに映る写真は花の様に綺麗な笑顔だった

涙が降った翌日、膝を抱えて一週間、世界を恨んで何週間？

彼女の事をずっと考えた暗い毎日

もう忘れてしまった。窓辺に置かれた綺麗な花。枯れちゃった。

萎れてしまった花の様に

心が死んだ僕の世界

もう光なんて射さない、と

膝を抱えなくちゃ生きられない世界に来た

綺麗に咲いた花の様に

心に飾った彼女の笑顔

もう死んでしまっただけ

いつかは水をあげられるように……。

命の水を。

笑顔の水を。

彼女の水を。

芸術的生命論

良く晴れた青い空の下、刃物を握り締める少女
綺麗な絵になる景色、生命とは芸術的だ

呼吸の音が響く部屋の中、膝を抱えなきゃ生きられない
狭くなり過ぎた世界から、生命に届けるメッセージ

芸術的に生きている僕達がいて
錆び付いた世界は上手く回らない

嘘を散りばめた夜に語る愛、偽りの口づけを交わそう
愛し合わなければ崩れる事、その事実人類は気付いている

廃棄物と化していく自分がいて
問題無く回っていく世界がある

偽物の花束を胸に抱えて
息を裏切り世界を去ろう
偽物の花束を胸に抱えて
人は必然的に命を見よう

良く晴れた青い空の下、刃物を握り締める少女
絵になる様な生命の美、芸術的に生きる僕等だ

消極的に示し続けるサインがあつて
心臓の音を響かせるスピーカーを伝う

芸術的に生きている僕達がいて

平和を見失った世界が回る

芸術的な生命

呼吸が続く生命の美

幻の戦争

皆が唱える『世界平和』とは、本当の平和ではないらしい
世界が終わる、その瞬間に「本当の意味が見える」と言う

動物が悲鳴を上げる事で、私達は生命を繋げています
世界が終わる、その瞬間に謝りきれない罪を貰う

ライフル抱えた少年を横目に

戦争映画で涙を誘います

左手無くした少女を知っても

婚約指輪の決まりは変わりません

誰もが知って暮らしてる

戦争とは平和を願う者達の生活の事

世界平和とは、答えを出そう

殺し合う、世界の終わりで

花が喋る瞬間は『平和』になった瞬間だ

鳥が歌う瞬間は『平和』になった瞬間だ

今はまだ花は枯れる事を繰り返しているだけでも

今はまだ鳥は悲鳴を上げて殺されるだけでも

生物達の『平和』とは健やかに生きれる環境の事だろ

だから邪魔者は人類であると、確かに言える

今も銃声が響く横で、『世界平和』という幻の戦争を繰り返している
人類が求める『世界平和』とは『地球』と『生物』の『平和』の事

だろ？

誰もが惚けて暮らしてる

地球が汚れた原因を知っても生活は続く

動物愛護とは、答えを出そう

命を食べる事に馴れた人類よ

誰もが知って暮らしてる

戦争とは平和を願う者達の生活の事

世界平和とは、答えを出そう

殺し合う、世界の終わりで

『世界平和』とは人類がいなくなると成り立つらしい
神様、その事実をどうか塗り替えてください

ラストハイライト

花が綺麗に咲き誇る瞬間、出会えた事は奇跡です
月が半分に契られた瞬間、輝く星空は記念物です

繰り返される様な怠い日々、変化が有る事は事実です
蝕まれていく様な思い出、増える悲しみも比例します

たった一つ

此処に生きる奇跡の瞬間

ラストハイライト

0・1秒でも奇跡の場面は此処に有る

ラストハイライト

一瞬足りとも無駄が無い、だから辛いのだ

人が平和を祈り続ける姿、偽りの花束を記念物へ
人が平和を祈り続ける姿、偽りの花束を戦死者へ

たった一人

此処に生きる戦場の騎士

たった一つ

此処に生きる生命の芸術

最重要な瞬間を繰り返す事に疲れている
だから呼吸は生きる為に繰り返すのだ
生命一つ、無くても変わらない世界だが
彼女と彼、君と奴の世界は変わるのだ

ラストハイライト

0・1秒でも奇跡の瞬間は此処に有る

ラストハイライト

どんな瞬間でも全てに必要な直線の一部だ

誰もかもが繰り返す生活に飽きていて

誰もかもが鳴り響く鼓動を嫌がってる

それでも嫌な世界を愛する真心があって

だから生命は汚い姿で生活という戦場に立つ

美しい生命を語って

美しい生命を背負って

物語は終わりを迎える

戦争とは美しい生命の此処に在る生活だ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9784j/>

ラストハイライト

2010年10月9日02時02分発行